

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および12月14日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は地域の医療圏において中核的な役割を担い、チーム医療のさらなる醸成や後進育成に取り組んでいる。全病棟を回復期リハビリテーション病棟として運営し、自法人施設や他の急性期病院と連携し、退院後にも継続的なリハビリテーション・ケアを提供している。

今回の高度・専門機能リハビリテーション（回復期）の受審においては、各職種が専門性を発揮し、充実した体制のもとで多職種が協働しながら機能を発揮していることを確認した。今回の受審が貴院の益々に発展につながれば幸いである。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病棟は全て回復期リハビリテーション病棟で構成され、病棟運営に関する理念や基本方針は病院の理念等を反映している。リハビリテーション科専門医の配置をはじめとして、365日十分なリハビリテーション・ケアを提供できる専門職を配置し、朝・夕の時間帯にも介入している。発症・紹介から入院までの日数、在棟日数、入退院時のFIMなど基本的なデータを収集し、共有している。院内の多職種で構成する教育研修委員会を開催し、新人研修や倫理研修などについて計画し、適切に実施状況を把握している。また、看護師や療法士のキャリアパスを整備し、研修や職務評価が行われている。

地域の医療圏において、回復期リハビリテーション病棟の中心的な役割を担っており、法人内の急性期病院からの紹介時には、医師、療法士、看護師が直接病院を訪問して患者を診察する仕組みがある。また、患者が退院する際には紹介元に医師、看護師、療法士などの情報をフィードバックしている。退院後のリハビリテー

ション・ケアの継続に向けて、自院において外来リハビリテーションと訪問リハビリテーションを実施している。退院後も継続したリハビリテーション・ケアが提供されるよう、地域連携パス等を活用し、担当ケアマネジャーや地域サービススタッフと連携を図っている。高齢者の独居や認知症など自宅復帰が困難と予想される患者の場合は、入院時から社会福祉士が患者・家族の希望を踏まえた上で病院や施設を紹介している。医療相談室では、地域の医療機関や居宅系施設、介護福祉施設等の情報を収集し、患者・家族が容易に閲覧できるように情報をファイルにまとめて設置している。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

各病棟にリハビリテーション科専門医が専従配置されている。患者の神経学的所見や画像診断、リハビリテーション評価に基づく予後予測とリハビリテーション処方、リスク管理などが概ね適切に行われている。回診やカンファレンスを通して患者のリハビリテーション・ケアの進捗を把握し、定期的に患者・家族にリハビリテーション総合実施計画書を用いて説明を行っている。看護師、介護福祉士、看護補助者のそれぞれに業務基準・手順が整備され、役割分担を明確にして日常業務を遂行している。入院時にICFに基づいて情報収集、アセスメントを行い、担当看護師・介護福祉士を中心に退院後の生活を踏まえた日常生活の指導・支援に対応している。個別訓練時間以外の活動性を高める取り組みとして、趣味や家庭での役割を取り入れた病棟訓練を行うように努めている。病院の教育研修委員会に加え、看護教育委員会と介護教育委員会を設置し、年間教育計画の立案、研修運営を行っている。回復期リハビリテーション病棟協会認定看護師が複数名在籍し、活躍している。

各療法士は標準的な評価手法や生活機能の観察・評価を通じて療法プログラムを策定し、定期的に見直している。日々の療法に加えて、早出・遅出の療法士は介入目的・期間を明確にして選択された患者を標的に、効率的な介入を行っている。社会福祉士は、入院当日の患者・家族との面談の際に同席し、ニーズを把握している。また、合同評価カンファレンスに参加し、支援計画に反映している。患者の病前の生活や背景、就労や経済状況を把握し、支援計画を立案して入院時報告書

(SW)を作成し、他職種として共有している。管理栄養士は看護師による栄養スクリーニング、MUSTによる栄養評価後に、栄養管理計画を立案し、定期的に見直している。また、遅滞なく摂食嚥下障害患者に対する評価と嚥下調整食を選択し、学会分類に準拠した嚥下調整食を提供するなど、標準的な手法を用いて栄養管理を行っている。管理栄養士は定期的な栄養評価、ミールラウンド、チームカンファレンスの検討などを通じて、リハビリテーションの進捗による必要エネルギー量などの変化、摂食・嚥下機能の変化による食形態の変化など、必要な栄養計画の見直しにタイムリーに対応しており、チーム医療への関与は適切である。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院時に医師を含む多職種で合同評価を行い、床上動作、起き上がり、移動、トイレ動作、コミュニケーション、口腔などの評価、転倒・転落、褥瘡、誤嚥のリスクを評価している。入院後には多職種カンファレンスを行い、初期評価に基づき、個々の課題に対して具体的なリハビリテーション・ケア計画が立案されている。

疾患別リハビリテーションは、医師による理学療法、作業療法、言語聴覚療法に分けた指示や中止基準の提示に基づき、入院当日から実施されている。病棟生活場面では、作業療法士と看護・介護職が合同で入浴活動の評価を行うなど、多職種の専門的視点を活かして適切に協働している。リハビリテーションの進捗状況は、定期的なカンファレンス、日々の朝夕の申し送りにより、チームで共有している。定期カンファレンスでは、進捗状況だけではなく、新たな課題について議論している。また、ICFの機能・活動などに分けて各職種の目標の達成状況や課題について報告と共有し、解決策について検討している。

介護福祉士や社会福祉士等により、退院に向けた患者・家族の課題を把握し、対応策について検討している。また、介護能力や家屋の状況の評価して退院時目標を設定し、自宅環境の調整や介助指導、介護サービスなどの社会資源の導入を検討している。退院後、自院で訪問リハビリテーション、外来リハビリテーションを提供しており、訪問リハビリテーション利用者の情報を病棟スタッフと共有するミーティングを開催している。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	II
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ